

道とともに歩み続けて



富山県道路公社
Toyama Prefectural Road Public Corporation



富山県道路公社50年の歩み

雲上を走る

——立山有料道路

CONTENTS

祝 辞 「設立50周年に寄せて」	1
富山県知事 新田 八朗	
ご挨拶 「設立50周年を迎えて」	2
富山県道路公社 理事長 蔵堀 祐一	
3つの道路 管理路線図、有料道路事業等	3
大自然と生きる立山有料道路	5
立山有料道路の誕生	7
立山有料道路の営業概要	9
立山有料道路トンネル改築工事	12
主な安全対策工事	13
立山有料道路開通30周年記念式典	14
あすを拓く能越自動車道	15
能越自動車道の建設経緯と営業概要	17
婦中大橋有料道路	19
公社役員一覧	21
路線別通行台数	23
公社のあゆみ	25
現在の道路公社組織図	31
編集後記	



設立50周年に寄せて

富山県知事
新田 八朗

富山県道路公社が設立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴公社には、昭和46年の設立以来、立山有料道路や能越自動車道の整備・運営を通じて、円滑な交通の確保と地域の発展に大きく貢献いただいております。

本県が世界に誇る山岳観光ルート「立山黒部アルペンルート」を形成する立山有料道路は、経由する「立山弥陀ヶ原・大日平」が、平成24年にラムサール条約湿地に登録され、魅力が一層高まっており、四季折々の美しい大自然を求める国内外の多くの皆様に利用されています。一方で、供用開始から年数も経過しており、安全な交通の確保のため、老朽化対策や防災対策を着実に進めています。

また、北陸自動車道や東海北陸自動車道と直結する極めて重要な高規格道路である能越自動車道は、平成27年に富山県内区間が全線開通し、より多くの方にご利用いただけるよう、様々な施策に取り組まれています。

ここに、歴代役員をはじめ、職員の皆様や関係の皆様の長年にわたるご尽力に対し、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

さて、本県は、日本海側の中心に位置し、東西南北の各県・地域、さらには世界をもつなぐ「北陸の十字路」です。この強みを活かし、県民や民間企業、そして市町村が「ワンチームとやま」としてスクラムを組めば、あらゆる分野で「地方の時代」のトップランナーへと飛躍することができます。その実現に向けて、主要となる道路を管理する貴公社の役割は、とても大きいものと考えています。

貴公社には、このたびの設立50周年を契機として、今後とも事業の充実に努められ、県民の皆様が希望と笑顔に満ちあふれ、夢を叶えることができる、ワクワクする新しい富山県の実現に向けて、一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、富山県道路公社の限りないご発展と関係の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます。



設立50周年を迎えて

富山県道路公社 理事長

蔵堀 祐一

富山県道路公社は、地方道路公社法に基づき昭和46年に設立され、今年、半世紀(50周年)の節目を迎えました。

設立以来、地域経済の発展と住民福祉の増進に寄与するため、鋭意、事業を推進してまいりましたが、これもひとえに国をはじめ県・市町村、関係機関、そして地域の皆様方のご理解とご支援・ご協力の賜であり、心からお礼申し上げます。

当公社では、現在、「立山有料道路」及び「能越自動車道」の2路線の管理運営を行っています。

立山有料道路は、設立当初に当公社が買収し、維持管理してきたことから、当公社の歴史と歩みを一にしております。また、当道路は中部山岳国立公園内を走り、本県が世界に誇る霊峰「立山」へアクセスする全国屈指の山岳観光道路の一つでもあります。

一方、能越自動車道は、北陸自動車道の小矢部砺波ジャンクションから石川県輪島市までの延長約100kmの高規格道路であり、県北西部地区と全国三大都市圏を結ぶ重要な路線です。

事業を円滑に推進するため、直轄事業との合併施行により、平成8年3月に福岡インターチェンジまで、さらに、平成12年7月には高岡インターチェンジまでの13.7kmの供用を開始しました。また、高岡インターチェンジ以北については、直轄事業として整備が進められ、平成27年2月に七尾インターチェンジまで開通し、富山県内区間が全線開通となりました。

供用開始以来、当公社では経営の一層の効率化と経費削減に努め、中日本高速道路株式会社との料金の合併徴収、ETCレーンの設置、区間均一料金とすることにより料金所を一か所にして利用者の利便性向上を図るなど、利用される方に円滑で快適な高速交通サービスを提供してまいりました。今後とも、日本海国土軸の形成と広域観光ネットワークの確立に貢献していきたいと考えています。

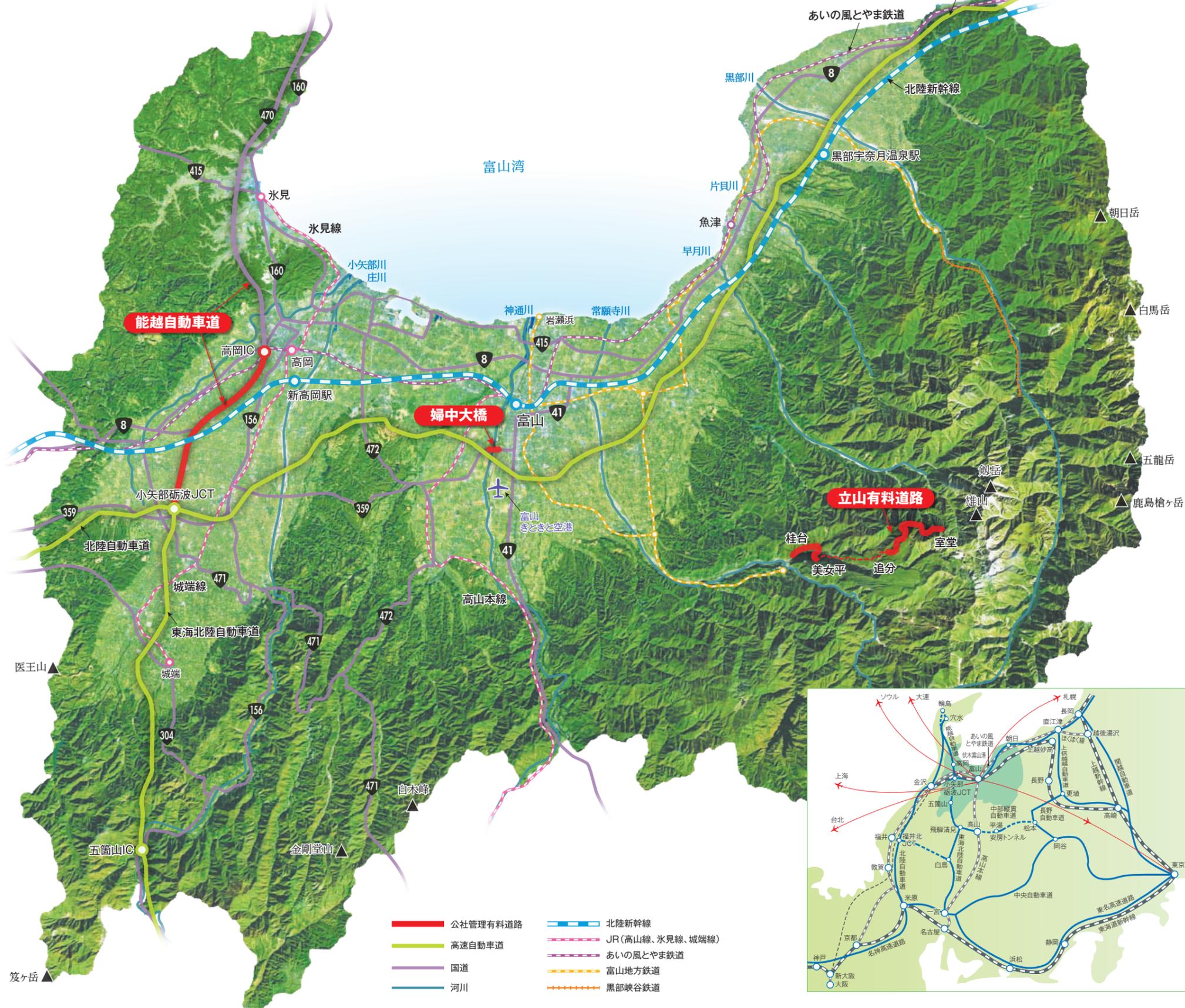
当公社を取り巻く経済社会環境は大きく変化しておりますが、50周年の節目を迎え、役職員一同が一丸となって、県民の皆様へ安全・安心で快適な有料道路サービスを提供できるよう努めてまいりたいと決意を新たにしております。

この50周年記念誌は、先に刊行しました30周年記念誌に、その後の20年間における当公社の活動を加えて編纂いたしました。

皆様には、この記念誌をご高覧のうえ、当公社の業務と役割にご理解を賜り、ご指導とご支援をいただければ幸いです。

3つの道路

立山有料道路／能越自動車道／婦中大橋



有料道路制度のはじまり

道路は、今日、国民生活や経済活動と密接に関連する社会資本であり、交通需要の増大とともにますます重要となってきた。

本格的な道路整備は、昭和27年の道路法、旧道路整備特別措置法の制定に始まる。

この法整備により、国や地方公共団体は資金運用部資金特別会計から道路整備資金を借り入れ、通行車両から徴収する通行料金で償還していく「有料道路制度」がスタートした。

また、昭和28年に制定された道路整備費の財源などに関する臨時措置法に基づく「道路特定財源制度」や翌29年からの道路整備5か年計画の始まりが、全国の道路整備を大きく推進することとなる。

その後、高度経済成長により道路整備の促進が強く要請されるようになり、有料道路事業の拡充と効率的な運営を図るため、昭和31年に道路整備特別措置法が制定され、高速道路株式会社(旧日本道路公団)等と地方公共団体が事業の主体となっていく。

地方道路公社の設立

国の基幹道路と比較し、地方の道路整備が遅れていたことから、地方幹線道路を整備するため、昭和45年に地方道路公社法が制定され、地方の有料道路事業は道路公社がその多くを引き継ぐこととなった。

道路公社が新たに道路建設をする場合の財源は、地方公共団体の出資金及び政府と民間からの借入金であり、許可を受けた料金徴収期間における通行料金等により償還することとしている。

ただし、途中で大規模な改築等を行う場合は、その財源の償還のために有料期間を延長できることとなっている。

富山県道路公社

- 設立 昭和46年4月1日
- 基本財産 5,745百万円(富山県出資)
- 事業
 - ◇ 有料道路の建設・管理
 - ・立山有料道路及び能越自動車道の2路線の建設及び管理
 - ・婦中大橋有料道路の建設及び管理(昭和62年8月から平成7年4月まで有料期間)
 - ◇ 関連道路の管理受託
 - ・県道富山立山公園線(美女平～追分間)の道路維持管理及び修繕
 - ・能越自動車道(高岡～県境間[直轄国道部分])の道路情報管理及び緊急対応

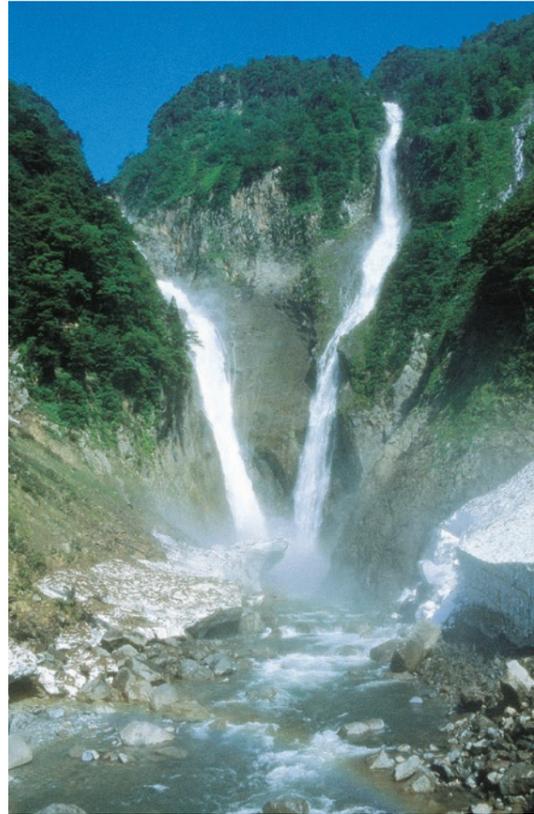
大自然と生きる立山有料道路

立山有料道路は、中部山岳国立公園内を走る管理延長14.4kmの山岳道路で、県道富山立山公園線の桂台～美女平(5.5km)及び追分～室堂(8.9km)の2区間で構成されている。

富山県が世界に誇る霊山「立山」へのアクセス道路であり、標高2,450mの室堂平で展開する360度の大パノラマが多くの観光客を魅了する。

立山黒部アルペンルート

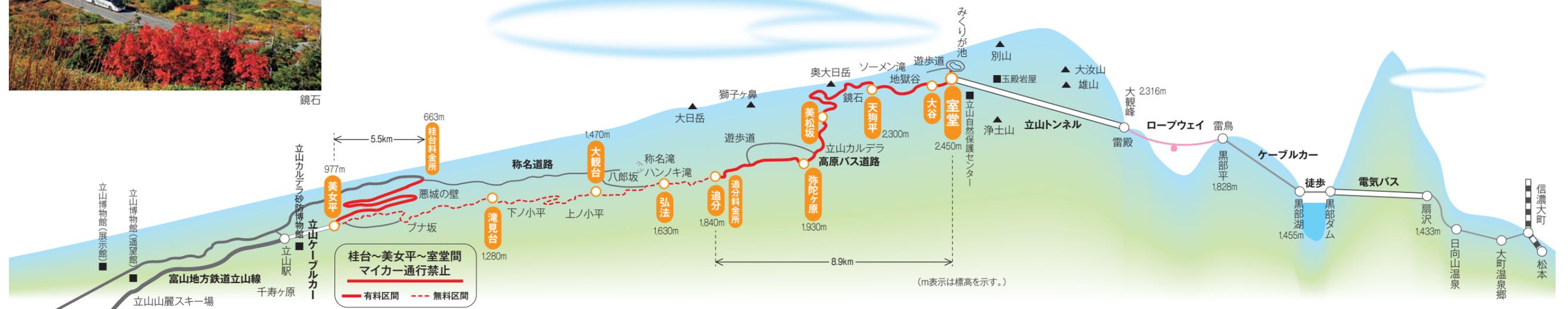
北アルプスの立山連峰を貫く富山県立山町(千寿ヶ原)から長野県大町市(扇沢)までの山岳観光ルートで、四季折々の雄大な自然を体感できる所として国内外から沢山の観光客を迎えている。



称名滝



鏡石



刻とともに移り変わる
周囲の景観に
感動の期待がふくらむ
肌で感じる緊張
時間が止まったような瞬間が
体を包む
道は天空へと続く



雄山山頂



みくりが池



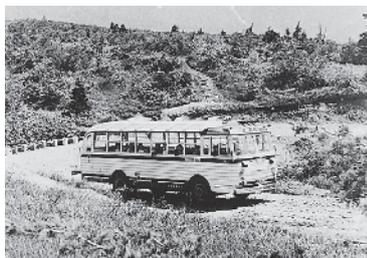
黒部ダム

立山有料道路の誕生

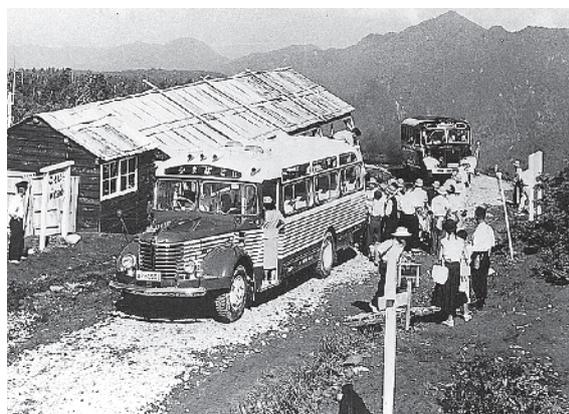
道路公社設立以前

現在の有料区間14.4kmについては、昭和35年5月に設立された立山黒部有峰開発株式会社(TKA)が道路運送法により、順次、事業着手し、追分～室堂間は昭和39年6月に、桂台～美女平間は昭和45年11月にそれぞれ道路として完成し、TKAが供用を開始した。

美女平～追分間は、昭和30年7月に県が有料道路として供用し、昭和31年に道路公団の発足と同時に同公団へと移管され、昭和45年4月に有料期間が終了し、県へ移管された。



弥陀ヶ原を行く高原バス(昭和48年頃)



弘法のバス停(昭和30年頃)

道路公社設立後

昭和46年4月に道路公社が設立され、TKAから桂台～美女平間及び追分～室堂間を買収することとなり、買収費に道路改良費、道路舗装費及び交通安全施設費を加えた額(C=3,668百万円)で有料道路事業を昭和46年5月に導入し、同年6月から有料道路として供用するに至った。

また、美女平～追分間についても、県から管理委託を受けて、昭和46年6月1日より桂台～室堂全線を一体的に管理している。



恒性寺トンネル工事(昭和43年頃)



桂台～美女平間の道路工事(昭和43年頃)

建設の歩み

年月	区間	桂台～美女平	美女平～追分	追分～室堂	摘要
S27.3					・立山開発鉄道KK設立
.12					・千寿ヶ原(立山駅)～美女平ケーブル着工
S28.9			・県が有料道路事業として着工		
S29.8					・千寿ヶ原～美女平ケーブル開通
S30.7			・供用開始(美女平～弘法)		
S31.4					・日本道路公団設立
.7			・県から日本道路公団に移管		
S33.7				・関電輸送道路を県に譲渡	
S35.5					・立山黒部有峰開発KK(TKA)設立
S36.10				・TKAが道路運送法により道路改良に着手	
S39.6				・供用開始	
.12					・立山黒部貫光KK(TKK)設立
S41.6	・TKAが道路運送法により建設着手(県が工事受託)				
S45.4		・有料期間(15年)終了により日本道路公団から県へ移管			
S45.12	・供用開始				
S46.4					・富山県道路公社設立 ・TKKルート全線開通
.5	・道路公社が買収	・道路公社が県から管理受託	・道路公社が買収		
.6					・関電、TKK、道路公社路線を通して、立山黒部アルペンルート全線開通
S47～49	・道路供用を行いながら道路拡幅、道路舗装および安全施設整備の各工事を実施			・道路供用を行いながら道路拡幅、道路舗装および安全施設整備の各工事を実施	
H11～15	・道路法面、トンネルの大規模改築補強工事の実施				
H23～	・大規模落石対策工事の実施				
R4～	・大規模施設修繕工事の実施				

※関電ルート(黒部ダム～長野県大町市)、TKKルート(室堂～黒部湖)

(S:昭和、H:平成、R:令和)

自然環境保護の機運を背景にマイカー規制

立山黒部アルペンルートが全線開通した昭和46年当初から、道路交通法に基づく公安委員会告示及び道路法に基づく道路公社告示で、路線バス及び観光バス以外の車両の通行が原則禁止(いわゆる「マイカー規制」)された。

時あたかも自然環境保護の意識が高揚した時期とも重なり、道路工事等が完了し道路法による交通規制がなくなった後も道路交通法による規制が継続され、今日に至っている。

立山有料道路の営業概要

営業期間、時間

令和3年4月1日現在

期間	始業	終業
5・6・9・10・11月	7:00	18:00
7・8月	6:00	19:00

立山有料道路の起点である桂台は標高が663m、終点の室堂が2,450mで、冬季は気温マイナス20度にもなる厳しい自然環境の中にある道路であり、除雪に多

大な時間を要している。営業期間中も道路パトロール等により十分に安全を確保する必要があることから、営業期間や時間が限られている。

また、安全確保のため基準を設けており、雨量（時間雨量30mm、連続雨量70mm）や風速（毎秒30m）、震度4以上の地震等が観測された場合に、交通規制を行っている。

通行料金（主な車種）

令和3年4月1日現在（単位：円）

	桂台～室堂（往復）	
	普通通行券	回数通行券（11枚つづり）
普通自動車（貨物）	26,400	264,000
小型車（貨物）	13,420	134,200
マイクロバス	19,800	198,000
路線バス	33,000	330,000
大型観光バス	52,800	528,000

（料金徴収予定期間：令和23年11月30日まで）



桂台料金所での料金収受

早期開通に向けて春山除雪

立山有料道路は、日本で有数の観光地「立山」へのアクセス道路であることから、関係団体及び機関で「立山ルート除雪組合」を組織し、最大積雪20mに及ぶ除雪を実施している。

春山観光に間に合わせるため、除雪作業は2月、まさに厳寒の中でスタートする。

ブルドーザーで雪を削り、まず一車線幅を確保した後、バックホウで両側の雪壁を崩し、それをロータリー除雪車が雪壁を越えて吹き飛ばす。熟練したオペレーターが、

21台の除雪機械を駆使し、約2か月にも及ぶ作業である。



「立山熊太郎」による除雪作業

開通日の変遷

（月、日）

年度	桂台 ⇄ 美女平	美女平 ⇄ 弥陀ヶ原	弥陀ヶ原 ⇄ 天狗平	天狗平 ⇄ 室堂
S46	6.1	4.24	5.2	5.27
S57	5.22	4.20	4.25	5.1
S62	5.17	4.20		4.28
H2	5.13		4.25	
H9	5.3	4.10	4.23	
H12	5.1	4.10	4.20	

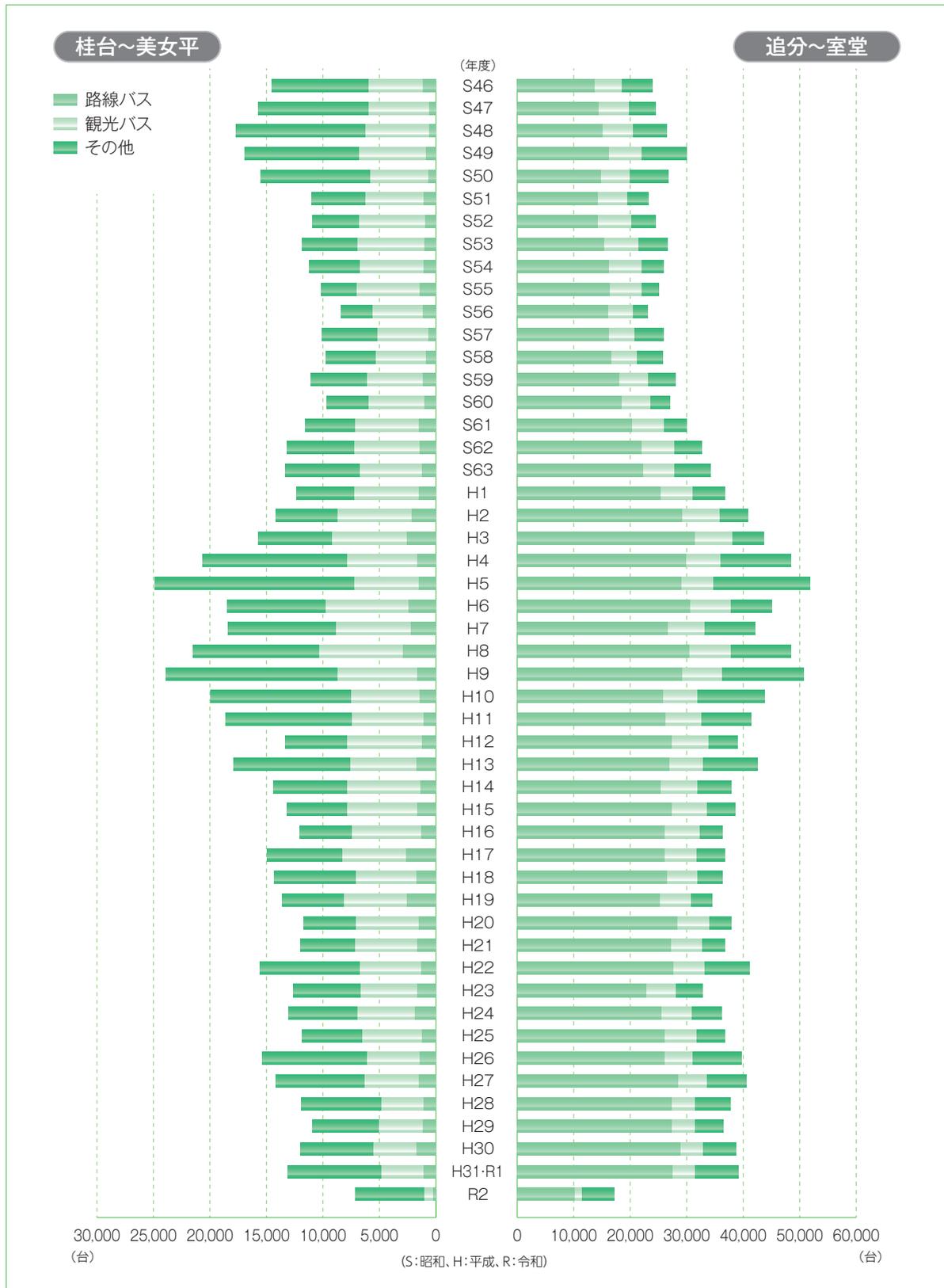
年度	桂台 ⇄ 美女平	美女平 ⇄ 弥陀ヶ原	弥陀ヶ原 ⇄ 天狗平	天狗平 ⇄ 室堂
H16	5.1	4.10		4.17
H23	5.1	4.10		4.16
H24	5.1	4.10		4.17
H25	5.1	4.10		4.16
H29	4.29	4.10		4.15
R3	4.29		4.15	

（S：昭和、H：平成、R：令和）



弥陀ヶ原をいく路線バス

通行実績



立山有料道路の営業概要

春の雪壁「雪の大谷」

「立山ルート除雪組合」により全線除雪されている立山有料道路の室堂近く、その名も「雪の大谷」では雪壁が20mにも達する迫力で県外観光客に大変好評であったことから、平成6年度、観光機関が中心となり「雪の大谷散策実行委員会」が結成され、4月下旬の数日間、時間を限定し、自由に散策できることとした。

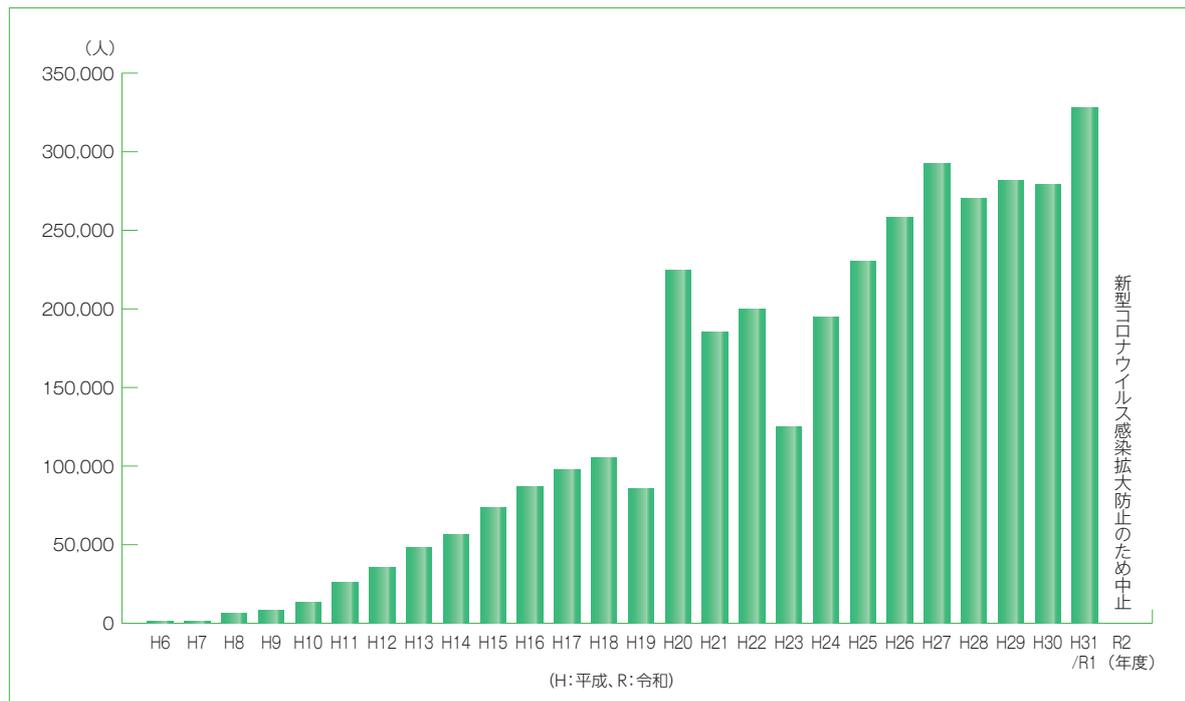
その後、さらに観光客が増加したことから、平成12年度からは、2車線に拡幅し、4月下旬の10日余り、片側1車線を歩行者専用とした。

さらに、平成23年度以降は開催期間を5月・6月まで延長され、令和元年度の参加者は30万人を突破した。



雪の大谷

立山・雪の大谷ウォーク参加者数



立山有料道路トンネル改築工事(30年目のリフレッシュ)

恒性寺トンネルと美女平トンネル

立山有料道路の桂台～美女平間(5.5km)は、標高差が310m、斜面勾配が40～60度の急峻な斜面を3段のつづら折りに建設されており、全国でも屈指の山岳道路である。

この区間にある恒性寺トンネル(L=770m)及び美女平トンネル(L=271m)は、弥陀ヶ原溶岩台地の北壁に位置し、昭和45年に完成したものである。両トンネルともに30年が経過し、覆工コンクリートにクラックが発生し、ト

ンネルの変状が顕著になるなど健全度が低下したことから、平成10年5月にトンネル技術の専門家からなる「立山有料道路トンネル検討委員会」を設置し、健全度評価を行うとともに、対策工を検討した。

そして、当委員会から対策工の提言を受けて、平成11年度から改築工事に着手、工事費1,658百万円を投資し、平成13年5月に完成した。



改築前



改築後

工事概要

対策工法として、トンネルの損傷度合いにより、NATM 全面巻立工法、NATM上半断面改築工法、裏込注入工法、坑口対策工を実施した。

改築延長は、2トンネルの全延長1,041mのうち706mに至る大規模なものとなった。

工事の施工にあたっては、次の4点に留意した。

①コンクリートの吹付けが厳冬期となったため、各種設備をスノーシェッド内に入れ、また、骨材やコンクリート練

混ぜ水を加温するなどの凍結防止対策を実施した。

②防水シートの接合部の水密性を高めた。

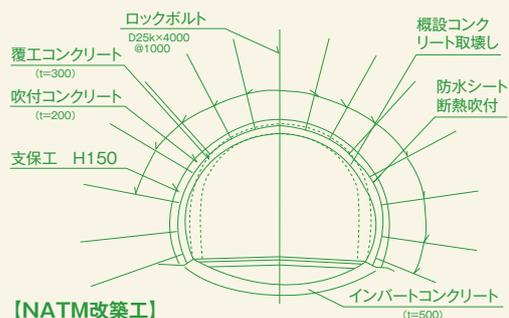
③地山の凍結と融解の繰り返しによる巻立てコンクリートの劣化を抑止するため、防水シートとコンクリートの間にウレタン断熱材を貼ることにより、凍結防止を図った。これは、北海道以外では、初めての施工例である。

④営業期間と重なる時期は、大型バスの安全な通行に最大限の注意を図った。

NATM (NEW AUSTRIAN TUNNELLING METHOD)

地山を掘削した後、吹付コンクリート、ロックボルト、鋼製支保工等を適切に組み合わせることにより、地山を支持してトンネルを建設する工法である。

この工法は、鋼製支保工と矢板を主たる支保構造部材とする矢板工法に比べて、地山と支保構造部材の間に空隙が残らず、地山と一体となった支保構造を形成する効果がある。



[NATM改築工]

主な安全対策工事(防災改築工事・大規模修繕等)

桂台～美女平間は、供用開始からの年数の経過とともに、山腹斜面の風化が進行し、道路法面のうち危険と思われる箇所についての緊急な対策が必要となり、平成13年度にロックキーパー等の防災改築工事に着手、工事費524百万円を投資し、平成15年度に完成した。

その後、同区間においてさらなる対策が必要となり、平成23年度からロックシェッド等の防災改築工事に着手、

工事費2,070百万円を投資し、現在も工事を実施しているところである。

また、道路法改正に基づき、橋梁、トンネル、シェッドを点検した結果、供用から約50年が経過し、大規模な修繕や更新が必要となったことから、令和4年度から長寿命化対策事業に着手予定である。

工事概要

①対策工法

防災改築工事として、法面の状況により、ロックシェッド工、ロックキーパー工、落石防止柵工、ロープネット工を実施した。

平成13～15年度の工事は、ロックシェッド工30m、ロックキーパー工111m、落石防止柵工109mとなった。

平成23年度からの工事は、ロックシェッド工205m、

ロックキーパー工128m、ロープネット工4,200㎡の計画で、現在工事を進めている。

②工事の施工

平成23年度からの工事において、地質調査の結果から基礎工などに追加対策工事が必要となったことから、工事期間を延長している。



細谷第1ロックシェッド(令和2年)



細谷第4ロックキーパー(平成24年)

立山有料道路開通30周年記念式典

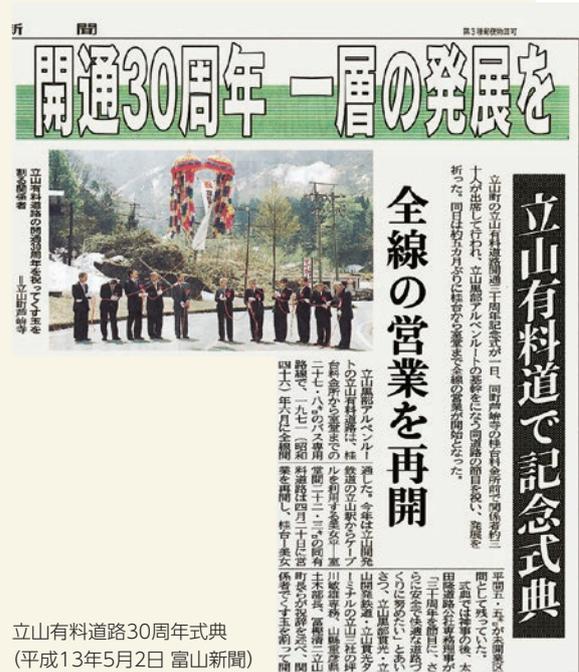
立山有料道路は、昭和46年6月1日に開通し、平成13年度が30周年にあたることから、管理事務所のある桂台において、関係機関・団体を招き記念式典を挙行政るとともに、当年の通行の安全を祈願した。



営業再開に先立つ安全祈願(平成13年5月1日)



記念式典で祝辞を述べる山縣富山県土木部長(平成13年5月1日)



立山有料道路30周年式典(平成13年5月2日 富山新聞)



開通時刻を待つ観光バスの列(平成13年7月28日早朝)

あすを拓く能越自動車道

能越自動車道のあらし

能越自動車道は、小矢部砺波JCTから高岡市及び氷見市を通過し、輪島市に至る高規格道路（一般国道470号）である。また、北陸自動車道や東海北陸自動車道との連結により高岡市を中心とする富山県北西部地域と三大都市圏との交流を深め、地域内の連携を強化し、産業の振興、観光開発等地域の活性化にとって極めて重要な路線である。

本道路は、平成2年度から直轄事業との合併施行により事業を実施し、まずは小矢部砺波JCT～福岡ICまでの6.9kmが平成8年3月28日に開通した。

平成9年度からは、福岡ICから高岡ICまでの延長6.8kmを同じく合併施行により事業を実施し、平成12年7月19日に供用を開始した。

また、高岡IC以北については、国土交通省の直轄事業（無料区間）として整備が進められ、平成16年6月13日、高岡IC～高岡北IC間が開通した。

これにあわせ小矢部東IC・福岡IC・高岡ICの3料金所を廃止し、小矢部東本線料金所、福岡本線料金所の2料金所を新設する料金所の再編を行った。

その後、平成19年4月15日に氷見IC、平成21年10月18日に氷見北IC、平成24年3月25日に灘浦ICまで



それぞれ段階的に整備が進められ、平成27年2月28日の七尾ICまでの開通により、富山県内区間が全線開通した。

また、平成30年6月20日には能越自動車道の利便性の向上のため、ETCが利用できなかった福岡本線料金所を廃止し、小矢部東本線料金所の1料金所への統合を行い、料金体系を全区間均一に変更した。



小矢部砺波ジャンクション

美しく豊かな自然と
歴史に育まれた
文化がここにはある
それらとともに
生きる人々との
出会いに胸がたかまる



高岡インターチェンジ



福岡パーキングエリア

能越自動車道の特徴

■ 道路公社と国の一体管理

県内区間は、富山県道路公社管理の有料区間（13.7km）と国管理の無料区間（30.2km）が一本に繋がっているため、交通管制と道路パトロールを、公社が国から受託し、一体管理することにより、効率化と経費削減を図っている。

■ 「日本海国土軸」・「環日本海交流」の展開

日本海沿岸地域に高速交通等の国土基盤を整備することにより、社会・経済・文化等の諸機能を有機的に連結する「日本海国土軸」を形成し、あわせ

て国際拠点港湾伏木富山港と各地区のアクセスを強化することにより、「環日本海交流」の促進、地域間交流の飛躍的発展を図り、新たな国土形成の基礎を整備する。

■ 広域観光ネットワークの確立

北陸自動車道・東海北陸自動車道とともに、能登半島、五箇山、立山、黒部峡谷などを有機的に結ぶ回遊・通年・滞在型の広域観光ネットワークを形成する。

能越自動車道の建設経緯と営業概要

建設に向けて

石川県能登地域・富山県北西部と三大都市圏との交流を促進するとともに、沿線各地の開発プロジェクトを推進し、広域観光ルートの形成など地域の発展を目的として、昭和47年、沿線自治体の首長等が構成員となり「能

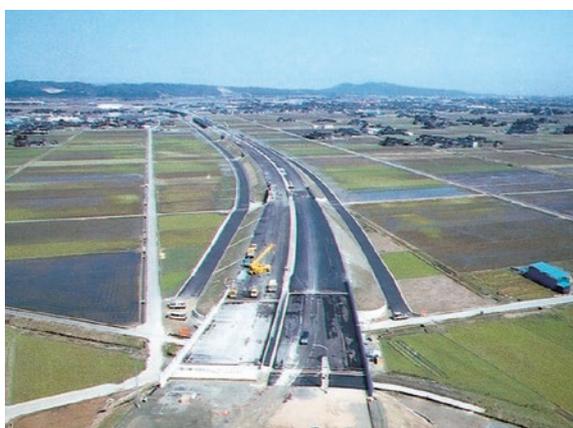
越自動車道建設促進期成同盟会」が結成された。

さらに、昭和62年6月、第四次全国総合開発計画の高規格幹線道路網14,000kmの中に位置づけられた。

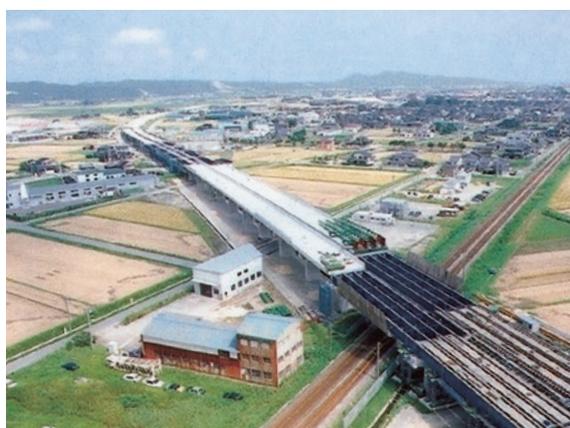
建設の歩み

平成2年6月23日 第I期工事の起工式（建設省直轄事業）
 平成3年1月4日 小矢部砺波JCTから有料道路事業着手
 平成8年3月28日 小矢部砺波JCT～福岡IC間6.9km 供用開始
 平成8年11月12日 第II期工事の起工式（建設省直轄事業）
 平成10年1月21日 有料道路事業着手
 平成12年7月19日 福岡IC～高岡IC間6.8km 供用開始
 平成16年6月13日 小矢部東本線料金所、福岡本線料金所開業（小矢部東料金所、福岡料金所、高岡料金所は廃止）
 高岡IC～高岡北IC間4.5km 供用開始

平成19年4月15日 高岡北IC～氷見IC間11.2km 供用開始
 平成21年10月18日 氷見IC～氷見北IC間2.8km 供用開始
 平成24年3月25日 氷見北IC～灘浦IC間5.7km 供用開始
 平成25年3月24日 七尾大泊IC～七尾城山IC間9.3km 供用開始
 平成27年2月28日 灘浦IC～七尾大泊IC間7.1km、七尾城山IC～七尾IC間3.2km 供用開始
 平成27年11月8日 能越県境PA供用開始
 平成28年3月27日 氷見南IC供用開始
 平成30年6月20日 本線料金所統合（福岡本線料金所は廃止）



北へ向かって進む舗装工事（高岡市笹川地区）



旧JR北陸本線を跨ぐ高架橋工事（高岡市宝来地区）

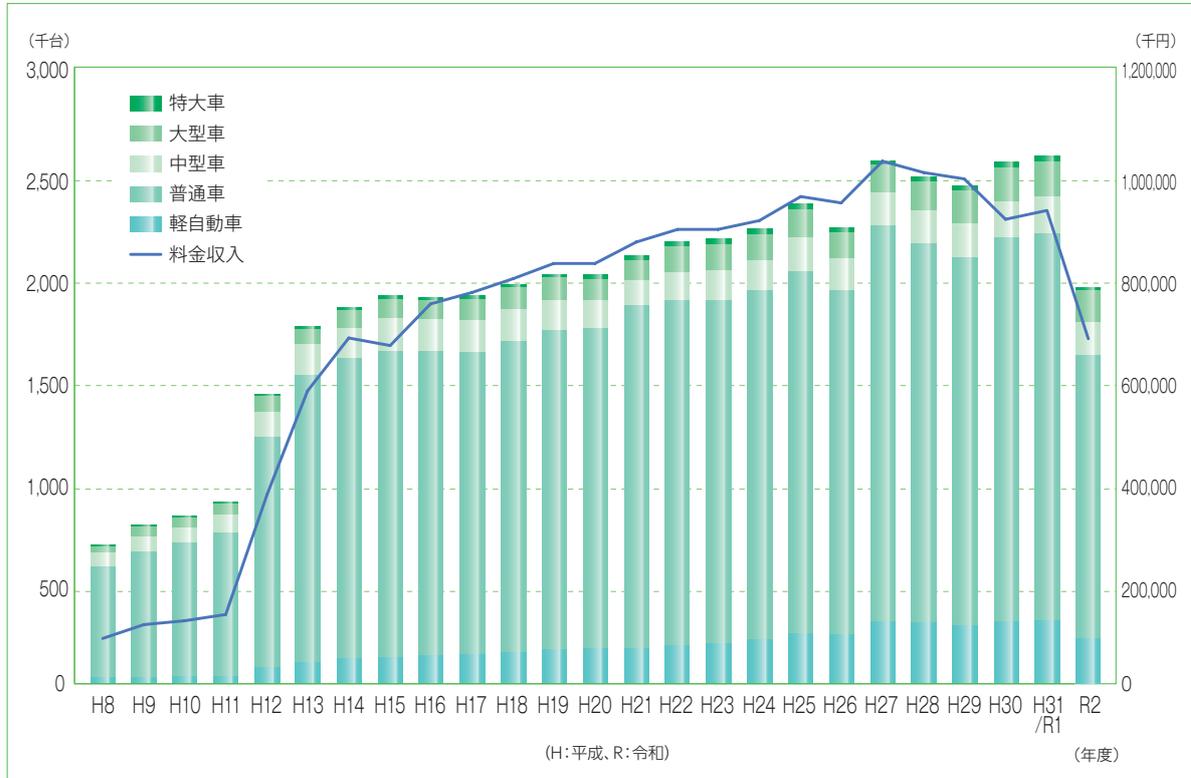
通行料金

令和3年4月1日現在（単位：円）

料金所（区間）	小矢部東本線 （小矢部砺波JCT～高岡IC）
軽自動車等	280
普通車	350
中型車	430
大型車	590
特大車	980

（料金徴収予定期間：令和24年6月21日まで）

通行実績（小矢部砺波JCTにおける車種別交通量）及び料金収入



高岡IC～福岡IC開通記念式典 (平成12年7月19日)



小矢部東本線料金所



冬の安全確保のため梯団除雪を実施

婦中大橋有料道路

(平成7年5月1日無料開放)

建設の経緯

一般国道359号は、富山市から砺波地方を結び石川県金沢市に通じる広域的幹線道路であると同時に、富山市周辺地域においては、富山市の中心市街地と周辺地域を連絡する都市内幹線道路でもある。

富山市街地及びその周辺での都市化の進展に伴う交通需要の増大により、富山婦中バイパスの整備が急務となり、神通川橋梁区間については有料道路事業の活用により、本県で初めての有料道路橋(L=0.7km)

として整備することで早期建設を図ることとした。

建設工事は、有料道路事業費10億円で昭和61年7月に始まり、昭和62年7月に完成、同年8月3日に2車線で供用を開始した。なお、関連公共事業として、昭和56年6月から昭和62年5月まで有料区間0.7kmを含む延長1.3kmにおいて33億円が投資されている。

なお、利用交通量が伸び、平成7年5月1日に無料開放された。

通行料金

(単位:円)

車種	普通車	大型車(I)	大型車(II)	軽車両等
料金の額	100	160	360	10

(料金徴収期間:平成7年4月30日まで)



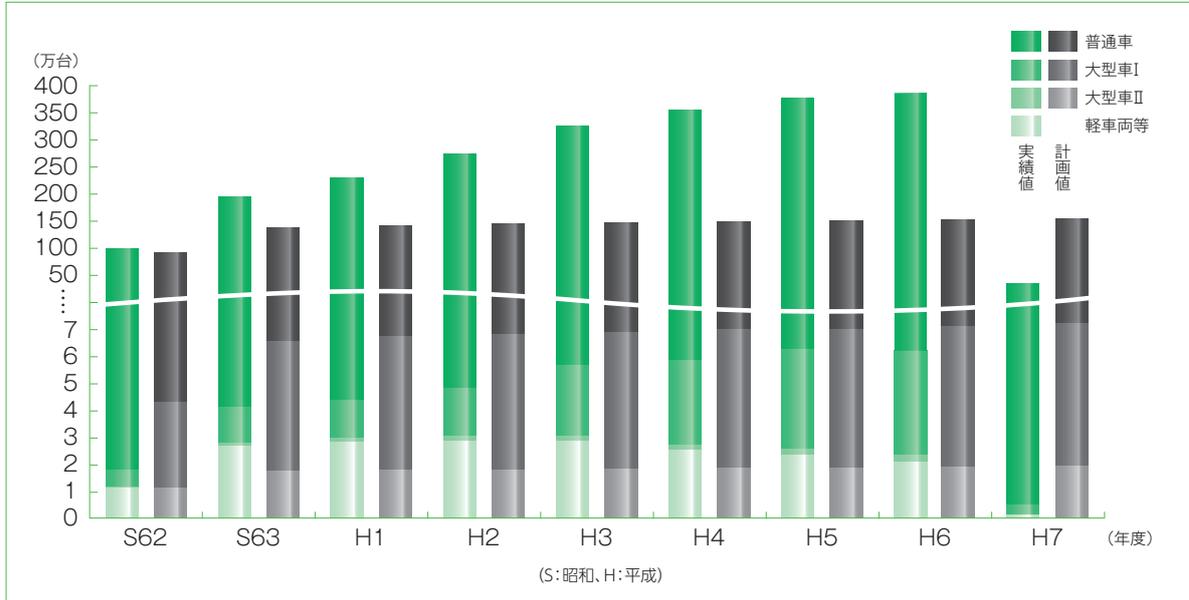
開通直後の婦中大橋有料道路周辺(昭和62年10月撮影)



市街化が進む婦中大橋周辺(平成12年4月撮影)

道は ひとを結び
 道は ときを駆け
 道は まちを繋ぐ

通行実績



※平成7年度の実績は、4月30日まで

早期の無料開放

営業開始以来、計画を大幅に上回る利用交通量の伸びにより、建設費の償還が極めて順調に進み、当初の計画（平成29年8月）より早く、8年9か月が経過した平成7年5月1日に無料開放された。



4車線化になった現在の婦中大橋

開通直後の婦中大橋有料道路



公社役員一覽

(S:昭和、H:平成、R:令和)

	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52
理事長	中田 幸吉	中田 幸吉	中田 幸吉	中田 幸吉	中田 幸吉	中田 幸吉	中田 幸吉
専務理事	朝日奈 重一	朝日奈 重一	朝日奈 重一	上野 次朔 山本 豊	上野 次朔	上野 次朔	上野 次朔
(常務理事)	—	—	—	—	—	—	—
理事(県総務部長)	中沖 豊	中沖 豊	塩谷 敏幸 中沖 豊	塩谷 敏幸	塩谷 敏幸	土岐 幸隆 塩谷 敏幸	土岐 幸隆
理事(県商労部長)	中村 泰男	土岐 幸隆	土岐 幸隆	皆川 博 土岐 幸隆	皆川 博	八木 国雄 皆川 博	八木 国雄
理事(県土木部長)	大西 信久	大西 信久	大西 信久	大西 信久	室賀 共	室賀 共	高桑 保治 室賀 共
監事(県出納長)	竹島 斉	竹島 斉	竹島 斉	竹島 斉	竹島 斉	坂本 重一 塩谷 敏幸 竹島 斉	坂本 重一
監 事	松本 宏	松本 宏	松本 宏	石田 重三	石田 重三	石田 重三	石田 重三

	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59
理事長	中田 幸吉	中田 幸吉	中沖 豊 栗山 幸吉 中田 正作	筆谷 芳夫	長島 和彦 筆谷 芳夫	長島 和彦	長島 和彦
専務理事	中田 正作 上野 次朔	中田 正作	飯田 庄作 二上 修三	—	品川 三郎	品川 三郎	品川 三郎
(常務理事)	—	—	—	—	—	—	—
理事(県総務部長)	榊原 勝美 土岐 幸隆	杉原 正純 榊原 勝美	杉原 正純	正橋 正一 杉原 正純	岩崎 忠夫 正橋 正一	岩崎 忠夫	岩崎 忠夫
理事(県商労部長)	飛永 善造	飛永 善造	飛永 善造	中村 公 飛永 善造	中村 公	中村 公	中村 公
理事(県土木部長)	高桑 保治	高桑 保治	高桑 保治	村田 潤 高桑 保治	原嶋 尚喜 村田 潤	原嶋 尚喜	原嶋 尚喜
監事(県出納長)	坂本 重一	坂本 重一	森丘 金太郎 坂本 重一	森丘 金太郎	森丘 金太郎	森丘 金太郎	森丘 金太郎
監 事	石田 重三	直江 重三 石田 重三	直江 重三	直江 重三	直江 重三	直江 重三	直江 重三

	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3
理事長	藤田 弘志 長島 和彦	藤田 弘志	田中 寿 藤田 弘志	田中 寿	田中 寿	宗田 勝博 田中 寿	宗田 勝博
専務理事	嘉藤 友作	嘉藤 友作	嘉藤 友作	嘉藤 友作	栗山 保	栗山 保	島 忠夫 栗山 保
(常務理事)	—	—	—	—	—	—	—
理事(県総務部長)	横沢 隼人 岩崎 忠夫	堤 新二郎 横沢 隼人	堤 新二郎	堤 新二郎	堤 新二郎	大永 尚武	大永 尚武
理事(県商労部長)	前田 正博	前田 正博	田中 徳夫 前田 正博	田中 徳夫	田中 徳夫	金子 和夫 田中 徳夫	金子 和夫
理事(県土木部長)	野村 修司 原嶋 尚喜	野村 修司	野村 修司	島倉 幸夫	島倉 幸夫	五十嵐 武 島倉 幸夫	五十嵐 武
監事(県出納長)	森丘 金太郎	森丘 金太郎	森丘 金太郎	森丘 金太郎	森丘 金太郎	横沢 隼人 森丘 金太郎 前澤 良夫	横沢 隼人
監 事	水橋 敏行 直江 重三	水橋 敏行	水橋 敏行	笠島 正晴	笠島 正晴	笠島 正晴	前澤 良夫

	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
理事長	宗田 勝博	宝賀 寿男 宗田 勝博	宝賀 寿男	新原 芳明 宝賀 寿男	新原 芳明	新原 芳明	新原 芳明
専務理事	島 忠夫	村田 隆夫	田所 稔 松岡 純一	田所 稔	竹島 忠	—	村田 隆夫
(常務理事)	—	—	—	—	—	葭田 衛	—
理事(県総務部長)	内貴 滋 大永 尚武	内貴 滋	岡本 全勝 内貴 滋	岡本 全勝	岡本 全勝	岡本 全勝	江畑 賢治 岡本 全勝
理事(県商労部長)	金子 和夫	佐藤 哲哉 金子 和夫	佐藤 哲哉	佐藤 哲哉	木村 治夫 佐藤 哲哉	高原 一郎 木村 治夫	高原 一郎
理事(県土木部長)	五十嵐 武	望月 倫也 五十嵐 武	望月 倫也	望月 倫也	白井 芳樹	白井 芳樹	白井 芳樹
監事(県出納長)	横沢 隼人	横沢 隼人	大永 尚武 横沢 隼人	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武
監 事	団野 彰	島田 宜剛 団野 彰	島田 宜剛	山崎 豊一	山崎 豊一	山崎 豊一	佐藤 允紀

	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
理事長	大永 尚武 新原 芳明	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武
副理事長	—	—	—	山縣 重彦	—	—	—
専務理事	関 静夫	関 静夫	太田 隆	山縣 重彦 中 哲男	中 哲男	草野 勝之	水口 勇真
(常務理事)	—	—	—	—	—	—	—
理事(県総務部長)	江畑 賢治	江畑 賢治	県経営企画部長 江畑 賢治	県経営企画部長 江畑 賢治	県経営管理部長 齋田 道男	県経営管理部長 齋田 道男	県経営管理部長 植出 耕一
理事(県商労部長)	高塚 信博	高塚 信博	豊國 浩治	豊國 浩治	山本 勇宰	室谷 智明	—
理事(県土木部長)	白井 芳樹	山縣 重彦	山縣 重彦	森岡 秀悟	森岡 秀悟	吉田 弥一郎	吉田 弥一郎
監事(県出納長)	澤合 敏博 大永 尚武	澤合 敏博	澤合 敏博	澤合 敏博	澤合 敏博	澤合 敏博	塚原 鐵二
監 事	佐藤 允紀	佐藤 允紀	中村 弘志	中村 弘志	中村 弘志	中村 弘志	折谷 雅實

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
理事長	大永 尚武	大永 尚武	大永 尚武	寺林 敏	寺林 敏	柳野 隆之	柳野 隆之
副理事長	—	—	—	—	井波 久治	井波 久治	井波 久治
専務理事	水口 勇真	—	—	—	—	—	—
(常務理事)	—	島 澄夫	西能 哲郎	西能 哲郎	—	—	—
理事(県経営管理部長)	植出 耕一	荻澤 滋	荻澤 滋	荻澤 滋	出口 和宏	出口 和宏	出口 和宏
理事(県商労部長)	藤木 俊光	斉藤 俊昭	斉藤 俊明	柳野 隆之	柳野 隆之	荒木 勝	県観光・地域振興局長 夏野 修
理事(県土木部長)	植生 雅章	植生 雅章	井波 久治	井波 久治	牧田 潔	牧田 潔	柴田 聡
監事(県出納長)	塚原 鐵二	県公営企業管理者 植出 耕一	県公営企業管理者 植出 耕一	県会計管理者 海原 清美	県会計管理者 中山 喜徳	県会計管理者 新川 稔	県会計管理者 飯田 久範
監 事	折谷 雅實	折谷 雅實	折谷 雅實	室谷 智明	室谷 智明	室谷 智明	室谷 智明

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
理事長	飯田 久範	荒木 勝	荒木 勝	須沼 英俊	須沼 英俊	山本 修	山本 修
副理事長	井波 久治	井波 久治	井波 久治	柴田 聡	柴田 聡	—	—
専務理事	—	—	—	—	—	村岡 清孝	村岡 清孝
(常務理事)	—	—	—	—	—	—	—
理事(県経営管理部長)	新田 一郎	新田 一郎	新田 一郎	山崎 康至	滝 陽介	滝 陽介	滝 陽介
理事(県観光・地域振興局長)	日吉 敏幸	渋谷 克人	漆畑 有浩	亀井 明紀	県観光・交通・地域振興局長 亀井 明紀 祐一	県観光・交通・地域振興局長 猪俣 明彦	県観光・交通振興局長 猪俣 明彦
理事(県土木部長)	柴田 聡	林 正之	林 正之	加藤 昭悦	加藤 昭悦	水口 功	水口 功
監事(県会計管理者)	天坂 幸治	島崎 慎一	村田 芳朗	上田 順子	上田 順子 大坪 昭一	酒井 武史	吉川 禎
監 事	室谷 智明	室谷 智明	室谷 智明	塚原 鐵二	塚原 鐵二	塚原 鐵二	塚原 鐵二

	R2	R3
理事長	山本 修	蔵堀 祐一
副理事長	—	—
専務理事	村岡 清孝	村岡 清孝
(常務理事)	—	—
理事(県経営管理部長)	滝 陽介	岡本 達也
理 事	県観光・交通振興局長 中谷 仁	県地方創生局長 助野 吉昭
理事(県土木部長)	江幡 光博	江幡 光博
監事(県会計管理者)	大橋 豊	中谷 仁
監 事	塚原 鐵二	寺井 幹男

路線別通行台数

(S:昭和、H:平成、R:令和)

1.立山有料道路

(単位:台)

車種	年度	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58
	桂台～美女平	路線バス	1,106	554	568	868	630	1,036	902	1,030	1,056	1,400	1,160	668
	観光バス	4,828	5,358	5,662	5,896	5,176	5,184	5,846	5,920	5,628	5,602	4,422	4,494	4,442
	その他	8,612	9,814	11,464	10,134	9,686	4,802	4,156	4,876	4,526	3,142	2,804	4,918	4,454
	小計	14,546	15,726	17,694	16,898	15,492	11,022	10,904	11,826	11,210	10,144	8,386	10,080	9,762
追分～室堂	路線バス	13,635	14,356	15,102	16,176	14,816	14,146	14,192	15,372	16,220	16,342	15,956	16,162	16,614
	観光バス	4,769	5,265	5,216	5,792	5,062	5,238	5,886	5,982	5,648	5,524	4,412	4,520	4,486
	その他	5,570	4,799	6,178	7,932	6,782	3,792	4,374	5,272	3,948	3,202	2,666	5,146	4,626
	小計	23,974	24,420	26,496	29,900	26,660	23,176	24,452	26,626	25,816	25,068	23,034	25,828	25,726
	合計	38,520	40,146	44,190	46,798	42,152	34,198	35,356	38,452	37,026	35,212	31,420	35,908	35,488

車種	年度	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8
	桂台～美女平	路線バス	1,122	1,002	1,458	1,436	1,182	1,498	2,116	2,518	1,648	1,492	2,400	2,176
	観光バス	4,976	4,960	5,684	5,762	5,516	5,684	6,560	6,666	6,172	5,678	7,320	6,632	7,364
	その他	4,940	3,672	4,426	6,006	6,620	6,186	5,500	6,524	12,804	17,682	8,766	9,622	11,162
	小計	11,038	9,634	11,568	13,204	13,318	13,368	14,176	15,708	20,624	24,852	18,486	18,430	21,462
追分～室堂	路線バス	18,006	18,450	20,210	21,958	22,202	25,284	29,188	31,348	29,786	29,008	30,554	26,524	30,400
	観光バス	4,996	4,980	5,704	5,800	5,514	5,714	6,532	6,608	6,058	5,648	7,194	6,604	7,258
	その他	4,940	3,544	4,014	4,900	6,444	5,746	5,084	5,654	12,598	17,204	7,288	8,950	10,704
	小計	27,942	26,974	29,928	32,658	34,160	36,744	40,804	43,610	48,442	51,860	45,036	42,078	48,362
	合計	38,980	36,608	41,496	45,862	47,478	50,112	54,980	59,318	69,066	76,712	63,522	60,508	69,824

車種	年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
	桂台～美女平	路線バス	1,644	1,416	1,052	1,184	1,676	1,352	1,638	1,260	2,604	1,724	2,558	1,470
	観光バス	7,044	6,042	6,342	6,618	5,904	6,490	6,184	6,162	5,630	5,352	5,554	5,606	5,538
	その他	15,206	12,476	11,240	5,522	10,334	6,562	5,378	4,650	6,690	7,220	5,478	4,646	4,834
	小計	23,894	19,934	18,634	13,324	17,914	14,404	13,200	12,072	14,924	14,296	13,590	11,722	11,994
追分～室堂	路線バス	29,178	25,788	26,174	27,260	26,900	25,280	27,314	26,022	25,996	26,476	25,178	28,246	27,098
	観光バス	6,936	6,022	6,302	6,554	5,900	6,482	6,226	6,140	5,628	5,350	5,546	5,602	5,520
	その他	14,496	11,920	8,898	5,160	9,766	6,106	4,996	4,206	5,158	4,486	3,814	4,074	4,160
	小計	50,610	43,730	41,374	38,974	42,566	37,868	38,536	36,368	36,782	36,312	34,538	37,922	36,778
	合計	74,504	63,664	60,008	52,298	60,480	52,272	51,736	48,440	51,706	50,608	48,128	49,644	48,772

車種	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	合計
	桂台～美女平	路線バス	1,276	1,668	1,816	1,222	1,424	1,500	1,066	1,114	1,678	1,088	210
	観光バス	5,454	4,972	5,078	5,268	4,674	4,768	3,744	3,924	3,842	3,700	824	272,146
	その他	8,822	5,956	6,128	5,340	9,246	7,930	7,100	5,916	6,484	8,302	6,076	364,834
	小計	15,552	12,596	13,022	11,830	15,344	14,198	11,910	10,954	12,004	13,090	7,110	707,070
追分～室堂	路線バス	27,586	22,838	25,498	26,084	26,024	28,432	27,334	27,304	28,844	27,372	10,156	1,156,389
	観光バス	5,472	5,120	5,356	5,554	4,952	5,018	3,974	4,080	3,918	3,930	1,214	273,206
	その他	8,046	4,837	5,269	5,100	8,722	7,122	6,360	5,102	5,866	7,762	5,716	318,499
	小計	41,104	32,795	36,123	36,738	39,698	40,572	37,668	36,486	38,628	39,064	17,086	1,748,094
	合計	56,656	45,391	49,145	48,568	55,042	54,770	49,578	47,440	50,632	52,154	24,196	2,455,164

2.能越自動車道

(単位:台、円)

年度	区間	車種					計
		軽自動車	普通車	中型車	大型車	特大型車	
H8	JCT~小矢部東IC	29,134	542,284	65,073	37,658	4,986	679,135
	小矢部東IC~福岡IC	23,421	434,241	47,165	27,726	4,527	537,080
	料金収入						107,306,751円
H9	JCT~小矢部東IC	32,336	613,749	75,991	46,811	5,002	773,889
	小矢部東IC~福岡IC	25,296	483,649	54,704	34,447	4,297	602,393
	料金収入						134,215,242円
H10	JCT~小矢部東IC	33,867	655,080	74,442	46,827	4,466	814,682
	小矢部東IC~福岡IC	26,505	519,773	54,440	35,058	3,815	639,591
	料金収入						140,944,920円
H11	JCT~小矢部東IC	39,379	699,671	86,562	53,964	4,524	884,100
	小矢部東IC~福岡IC	30,892	559,018	63,059	39,236	3,757	695,962
	料金収入						152,662,341円
H12	JCT~小矢部東IC	79,292	1,128,124	123,046	68,922	7,150	1,406,534
	小矢部東IC~福岡IC	70,405	998,538	97,448	55,145	6,354	1,227,890
	福岡IC~高岡IC	53,343	675,702	55,194	28,236	4,003	816,478
	料金収入						386,640,499円
H13	JCT~小矢部東IC	105,346	1,403,466	143,694	75,324	10,078	1,737,908
	小矢部東IC~福岡IC	100,587	1,289,135	120,448	62,449	9,204	1,581,823
	福岡IC~高岡IC	91,618	1,094,953	91,013	45,958	7,763	1,331,305
	料金収入						588,824,201円
H14	JCT~小矢部東IC	119,944	1,463,516	150,708	85,789	11,200	1,831,157
	小矢部東IC~福岡IC	117,039	1,355,955	129,679	70,971	10,383	1,684,027
	福岡IC~高岡IC	119,758	1,234,024	107,418	58,569	9,602	1,529,371
	料金収入						690,763,614円
H15	JCT~小矢部東IC	130,968	1,493,597	156,086	93,133	11,171	1,884,955
	小矢部東IC~福岡IC	128,458	1,391,828	134,382	78,258	10,281	1,743,207
	福岡IC~高岡IC	127,704	1,268,893	110,281	60,698	8,989	1,576,565
	料金収入						677,016,003円
H16	JCT~小矢部東IC	27,951	301,753	30,594	16,797	2,285	379,380
	小矢部東IC~福岡IC	27,530	281,167	26,082	13,810	2,148	350,737
	福岡IC~高岡IC	27,611	257,902	21,926	10,801	1,894	320,134
	料金収入						757,330,303円
H17	JCT~小矢部東IC	140,842	1,476,815	150,439	104,424	13,534	1,886,054
	福岡IC~高岡IC	219,767	1,542,918	120,255	66,889	10,964	1,960,793
	料金収入						780,590,057円
H18	JCT~小矢部東IC	151,786	1,520,557	152,296	104,304	14,503	1,943,446
	福岡IC~高岡IC	233,329	1,596,067	121,826	63,086	11,398	2,025,706
	料金収入						806,150,689円
H19	JCT~小矢部東IC	164,707	1,557,446	148,764	106,991	15,421	1,993,329
	福岡IC~高岡IC	263,744	1,660,398	121,302	63,455	12,725	2,121,624
	料金収入						835,901,783円
H20	JCT~小矢部東IC	171,039	1,565,438	133,576	101,408	20,849	1,992,310
	福岡IC~高岡IC	275,502	1,682,279	111,154	58,978	17,985	2,145,898
	料金収入						836,610,667円
H21	JCT~小矢部東IC	174,167	1,667,215	124,105	98,521	20,748	2,084,756
	福岡IC~高岡IC	279,555	1,720,775	101,708	57,405	18,329	2,177,772
	料金収入						877,881,365円
H22	JCT~小矢部東IC	186,045	1,679,849	138,974	126,586	22,199	2,153,653
	福岡IC~高岡IC	298,456	1,740,862	114,358	94,466	18,617	2,266,759
	料金収入						903,988,343円

年度	区間	車種					計
		軽自動車	普通車	中型車	大型車	特大型車	
H23	JCT~小矢部東IC	198,390	1,671,778	144,457	125,529	23,016	2,163,170
	福岡IC~高岡IC	312,772	1,754,485	117,641	79,542	19,614	2,284,054
	料金収入						903,752,126円
H24	JCT~小矢部東IC	215,265	1,704,811	147,413	122,166	24,264	2,213,919
	福岡IC~高岡IC	327,462	1,792,034	120,481	68,478	21,053	2,329,508
	料金収入						921,012,058円
H25	JCT~小矢部東IC	244,893	1,768,327	162,961	137,129	22,429	2,335,739
	福岡IC~高岡IC	365,122	1,844,410	124,765	78,679	18,759	2,431,735
	料金収入						967,267,182円
H26	JCT~小矢部東IC	241,950	1,675,510	153,773	130,904	19,403	2,221,540
	福岡IC~高岡IC	373,409	1,778,067	116,013	77,855	15,768	2,361,112
	料金収入						955,467,394円
H27	JCT~小矢部東IC	298,419	1,934,293	158,906	134,802	21,521	2,547,941
	福岡IC~高岡IC	401,332	1,841,805	114,643	80,334	17,389	2,455,503
	料金収入						1,035,941,251円
H28	JCT~小矢部東IC	294,992	1,853,169	158,670	140,641	19,967	2,467,439
	福岡IC~高岡IC	410,066	1,814,930	113,431	80,308	16,133	2,434,868
	料金収入						1,012,871,809円
H29	JCT~小矢部東IC	285,284	1,789,933	171,446	154,968	21,113	2,422,744
	福岡IC~高岡IC	412,434	1,773,112	121,960	88,339	16,295	2,412,140
	料金収入						1,000,351,487円
H30	JCT~小矢部東IC	300,883	1,876,637	173,487	162,661	24,840	2,538,508
	福岡IC~高岡IC	94,582	405,877	24,656	17,411	4,349	546,875
	料金収入	※平成30年6月20日に福岡本線料金所廃止					923,010,520円
H31/R1	JCT~小矢部東IC	305,628	1,890,363	175,636	174,493	25,995	2,572,115
	料金収入						939,641,954円
R2	JCT~小矢部東IC	220,141	1,378,990	158,895	158,418	14,594	1,931,038
	料金収入						695,802,423円

3.婦中大橋有料道路

(単位:台)

年度	車種	普通車	大型車I	大型車II	軽車両	合計
S62		984,941	6,067	541	11,441	1,002,990
		893,025	31,590	11,421	-	936,036
S63		1,934,844	12,850	1,289	26,956	1,975,939
		1,363,275	48,180	17,520	-	1,428,975
H1		2,298,700	14,230	1,439	28,378	2,342,747
		1,399,775	49,640	17,885	-	1,467,300
H2		2,737,758	17,633	1,663	28,997	2,786,051
		1,430,435	50,370	17,885	-	1,498,690
H3		3,246,171	26,151	1,876	28,822	3,303,020
		1,453,065	50,735	18,250	-	1,522,050
H4		3,550,998	31,277	1,985	25,535	3,609,795
		1,474,965	51,465	18,615	-	1,545,045
H5		3,774,902	36,839	2,213	23,697	3,837,651
		1,491,755	51,465	18,615	-	1,561,835
H6		3,865,534	38,352	2,442	21,145	3,927,473
		1,514,385	52,195	18,980	-	1,585,560
H7		334,917	3,657	189	1,425	340,188
		1,536,650	52,925	19,345	-	1,608,920
合計		22,728,765	187,056	13,637	196,396	23,125,854
		12,557,330	438,565	158,516	-	13,154,411

※各年度の下の段の数値は、計画値。※大型車I:車両総重量8トン以上または最大積載量5トン以上で、3車軸以下の普通貨物自動車。定期運行の乗合型自動車。3車軸以下のけん引自動車。※大型車II:4車軸以上の普通貨物自動車。定期運行以外の乗合型自動車。4車軸以上のけん引自動車。※平成7年5月1日無料解放

公社のあゆみ 昭和27年～昭和52年

昭和27年

- 3.30 富山県総合開発計画発表
- 4.1 立山開発鉄道株式会社（TKR）設立
- 4.28 対日平和条約および日米安全保障条約発効
- 5.1 血のメーデー事件
- 6.12 駐留アメリカ軍離県（富山）、進駐軍撤退

昭和28年

- 2.1 NHK、東京地区でのテレビ本放送開始。
- 5.11 国際通貨基金理事会で1ドル＝360円に決定
- 8.28 日本テレビ、民放初のテレビ放送開始
- 9.4 県有料道路（美女平～弥陀ヶ原）、鋼索鉄道（千丈ヶ原～美女平）合同起工式

昭和29年

- 4.11 富山産業大博覧会開催
- 6.1 千丈ヶ原を千寿ヶ原に改称
- 8.13 立山ケーブルカー、千寿ヶ原～美女平間開通
- その他 電気洗濯機・冷蔵庫・掃除機が「三種の神器」と呼ばれる

昭和30年

- 4.14 全国ちんどんコンクール富山市で開催
- 7.1 県道・美女平～弘法間（10.5km）開通。
TKR、バス営業開始
- 9.1 北陸線新倶利伽羅トンネル開通
- その他 神武景気始まる

昭和31年

- 4.16 道路整備特別措置法施行。日本道路公団設立
- 7.1 美女平～弘法間、弘法～追分間（工事中）、
日本道路公団に移管、立山有料道路となる
- 7.17 経済企画庁、経済白書発表。「もはや戦後ではない」
- 9.10 弘法～追分間（3.3km）開通。
TKR、弘法～追分間バス営業開始
- 11.19 国鉄、米原～京都間電化により東海道全線電化完成
- 12.18 日本、国際連合加盟承認

昭和32年

- 1.29 南極観測隊、昭和基地設営
- 10.1 5千円札発行
- 12.17 政府、新長期経済計画を決定（年率6.5%の経済成長目標）
- その他 なべ底不況始まる（～33末）



国見岳付近を行くハイヤー（昭和33年頃）



国見岳駐車場付近を行く高原バス（昭和39年頃）



昭和41年9月2日付け 北日本新聞



昭和45年9月3日付け 北日本新聞



昭和45年
11月26日付け
北日本新聞

昭和33年

- 3.9 関門国道トンネル開通
- 3.31 道路整備緊急措置法公布
- 7.19 関西電力、弥陀ヶ原～室堂間輸送路を県に移管、
県道として供用開始
- 9.1 追分～弥陀ヶ原間開通。
TKR、追分～弥陀ヶ原間バス営業開始
- 9.14 第13回国民体育大会夏季大会、富山県で開催
- 10.15 NHK 富山放送局、テレビ放送開始
- 12.1 1万円札発行
- 12.23 東京タワー（333m）完成。入場料 120円

昭和34年

- 4.10 皇太子明仁殿下と正田美智子さん結婚の儀。
- その他 岩戸景気にわく

昭和35年

- 5.8 立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
- 12.27 政府、国民所得倍増計画決定

昭和36年

- 4.10 県が、日本道路公団へ移管した有料道路の県への
再移管方を申し入れ
- 9.30 経済協力開発機構（OECD）発足
- 10.1 TKA、道路運送法に基づく追分～室堂間一般自動車道
建設工事着工
- その他 トヨタ自動車工業、大衆車パブリカ（697cc）発売

昭和37年

- 5.10 新産業都市建設促進法公布
- 6.10 北陸トンネル開通
- 10.1 国道41号線開通
- 10.5 政府、全国総合開発計画決定

昭和38年

- 1.23 北陸地方に豪雪
- 3.31 中小企業近代化促進法公布
- 8.20 富山空港開港
- 11.1 新1000円札発行

昭和 39 年

- 6.16 新潟地震
- 6.20 立山高原パークライン美女平～室堂間開通**
- 8.1 大町トンネル開通し、バス路線営業開始**
- 10.1 東海道新幹線東京～新大阪間開業
- 10.10 第 18 回オリンピック東京大会開催
- 12.25 立山黒部貫光株式会社 (TKK) 設立**

昭和 40 年

- 7.1 名神高速道路全線開通
- 10.4 TKA を主体に桂台～美女平間道路建設を決定

昭和 41 年

- 1.29 戦後初の赤字国債発行
- 3.26 富山県、全国初の登山届出条例公布 (12.1 施行)
- 3.31 総人口 1 億人突破
- 6.20 県、桂台～美女平道路建設工事受託**
- 9.8 一般自動車道桂台～美女平間建設工事起工式 (県、TKA 共催)**
- その他 いざなぎ景気

昭和 42 年

- 2.11 初の建国記念日
- 8.3 公害対策基本法公布施行
- 12.27 立山貫光ターミナル株式会社設立**

昭和 43 年

- 4.12 日本初の超高層霞が関ビル完成
- 4.21 富山新港開港
- その他 国民総生産 (GNP) 西独を抜き、米に次いで第 2 位となる

昭和 44 年

- 4.1 富山テレビ放送局開局
- 5.26 東名高速道路全線開通
- 8.11 桂台～美女平間豪雨により被災**
- 10.1 北陸線全線複線電化完成

昭和 45 年

- 3.14 日本万国博覧会、大阪千里で開幕 (~9.13)
- 4.1 日本道路公団、美女平～追分間道路を富山県に移管 (有料期間終了)**
- 5.20 地方道路公社法公布**
- 7.24 立山ロープウェイ開通**

11.25 一般自動車道桂台～美女平間竣工 (県、TKA 共催。12.15 供用開始)

その他 この年、光化学スモッグやヘドロなどの公害問題表面化

昭和 46 年

- 1.1 日本、国連安全保障理事国に就任
- 4.1 富山県道路公社設立**
- 5.20 当公社、一般自動車道桂台～美女平間、追分～室堂間、TKA より買収。美女平～追分間、県より管理受託**
- 6.1 立山黒部アルペンルート全線開通。桂台～美女平間、追分～室堂間を立山有料道路として供用開始**
- 7.1 環境庁発足

昭和 47 年

- 2.3 第 11 回冬季オリンピック札幌大会開催
- 6.11 田中角栄通産相『日本列島改造論』を発表

昭和 48 年

- 10.6 第 4 次中東戦争勃発
- 10.16 第 1 次石油ショック
- 10.16 北陸自動車道、砺波～小杉間開通**
- 10.17 OAPC 10 カ国原油生産削減決定
- 12.22 国民生活安定緊急措置法・石油需給適正化法公布施行

昭和 49 年

- 5月 地価上昇率史上最高 (32.4%)
- その他 経済実質成長率 -0.5% (戦後初のマイナス成長)。消費者物価 24.5% 上昇の狂乱物価。スタグフレーション問題化

昭和 50 年

- 3.10 山陽新幹線岡山～博多間開業 (東京～博多間全通)
- 10.1 富山医科薬科大学開学
- その他 乗用車の対米輸出 80 万台、米国の輸入台数の 50% を超える

昭和 51 年

- 12月～ 日本海側大雪 (38 豪雪以来 13 年ぶりに交通マヒ)

昭和 52 年

- 7.14 米ケーブカナベラルから日本初の静止気象衛星ひまわり打ち上げ成功
- その他 平均寿命、男 72.69 歳、女 77.95 歳で世界一



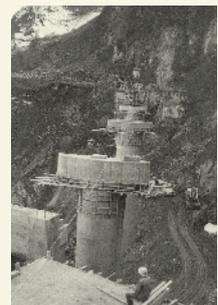
室堂駅より室堂平へ向う高原バス (昭和 46 年頃)



雪の大谷付近を行く高原バス (昭和 47 年頃)



竣工した桂台料金所 (昭和 45 年)



桂台～美女平道路の橋脚群 (昭和 43 年頃)

公社のあゆみ 昭和53年～平成12年

昭和53年

- 5.20 新東京国際空港(成田空港)開港
- 10.20 美女平～室堂間有料道路全線舗装完了**
- 10.31 円高、1ドル=175円50銭の最高値を記録

昭和54年

- 1.17 国際石油資本(メジャー)、対日原油供給の削減通告(第2次石油ショック)
- 6.28 第5回先進国首脳会議、東京で開催
- 11.21 富山市30万人都市となる
- その他 東京芝浦電気(現東芝)、ワープロ商品化第1号を発売。630万円。この年、国際児童年

昭和55年

- 3.2 日銀・大蔵省、円相場安定緊急策発表
- 9.9 イラン・イラク戦争勃発
- 12.12 自動車生産台数1000万台突破、米国を抜いて世界第1位
- 12.15 OPEC総会で原油価格10%値上げ決定

昭和56年

- 5.1 対米自動車輸出規制を決定
- 6.10 婦中大橋建設工事着工(公共事業)**
- その他 高速道路実延長距離3,000kmを突破

昭和57年

- 2.9 日航機、羽田空港着陸寸前に海に墜落
- 11.10 中央自動車道全線開通**

昭和58年

- 4.15 東京ディズニーランド開園
- 5.26 日本海中部地震(秋田沖、M7.7)8都道府県に被害
- 7.16 富山県置県百年記念にっほん新世紀博覧会、県民公園太閤山ランドで開催

昭和59年

- 1.9 ダウ平均株価(東証)1万円の大台に
- 3.18 新富山空港開港。ジェット機就航

昭和60年

- 3.14 東北、上越新幹線、上野～大宮間開業
- 4.1 日本電信電話公社、日本専売公社民営化、NTT、日本たばこ産業発足
- 4.1 富山エフエム放送、放送開始

10.2 関越自動車道全線開通

- その他 エイズの恐怖、世界に広まる
ファミコンブーム

昭和61年

- 4.1 男女雇用機会均等法施行
- その他 日米半導体摩擦で協定

昭和62年

- 2.23 公定歩合0.5%引き下げ、2.5%
- 4.1 国鉄分割民営化、JR6社等発足
- 6.30 第11次道路整備5カ年計画「高規格幹線道路網計画」に基づく能越自動車道建設計画決定**
- 8.3 婦中大橋有料道路、供用開始。**
- 8.3 婦中大橋有料道路、管理事務所開設**
- 9月 東北自動車道と首都高速自動車道が連結し、青森～熊本間2,002kmが完通
- 10.19 ニューヨーク株式市場、株価大暴落 史上最大の22.6%の下落率(ブラック・マンデー)
- その他 バブル景気(～H3)
高速道路実延長距離4,000kmを突破

昭和63年

- 3.13 青函トンネル開業(53.85km)
- 4.10 本四連絡橋瀬戸大橋開通(世界最長の道路・鉄道併用)
- 7.1 建設省、能越自動車道、小矢部砺波ジャンクション(JCT)～高岡インターチェンジ(IC)ルート発表**
- 7.20 北陸自動車道、着工以来22年ぶりに全線開通

昭和64年・平成元年

- 1.7 昭和天皇崩御
- 1.8 「平成」と改元
- 3.1 能越自動車道小矢部砺波 JCT～高岡 IC 区間の都市計画決定**
- 4.1 3%の消費税実施
- 8.8 能越自動車道小矢部砺波 JCT～高岡 IC 区間(13.7km)、公共事業化**
- その他 東証平均株価史上最高値3万8,915円

平成2年

- 4.1 大阪で国際花と緑の博覧会開催
- 4.1 富山県立大学、私立富山国際大学開学
- 6.23 能越自動車道、起工式(富山県内事業化区間、国直轄)**
- 11.1 高岡 IC～高岡北区間(4.0km) 公共事業区間延伸、高岡北 IC～氷見 IC 間(12.0km) 基本計画決定**
- 12.28 小矢部砺波 JCT～福岡 IC 区間(6.9km)、一般有料道路事業認可**



完成した婦中大橋有料道路



北進する能越自動車道の舗装工事



JR北陸本線を跨ぐ能越自動車道

平成 3 年

- 1.4 能越自動車道（小矢部砺波 JCT～福岡 IC 間）、建設工事着手
- 1.17 湾岸戦争勃発

平成 4 年

- 3.28 東海北陸自動車道福光 IC～小矢部砺波 JCT 間(11.1km) 開通
- 4.1 公定歩合引き下げ、年 3.75%に。東京市場、株安・円安・債券安
- 7.10 第 1 回ジャパンエキスポ富山博覧会開催

平成 5 年

- 1.1 EC 市場統合
- 4.26 富山～ソウル間定期便就航
- 6.9 皇太子浩宮殿下、小和田雅子さん結婚の儀
- 9.21 公定歩合 1.75%に。初の 1%台
- 12.24 冷夏・長雨で米作況指数戦後最悪。コメ不足騒ぎ

平成 6 年

- 6.27 東京外国為替市場で一時 1 ドル＝99 円 10 銭。米・英で 98 円台の最高値
- 7.15 富山～ロシア・ウラジオストク間定期便就航
- 7.31 富山インタハイ夏季大会開催（～8.24）

平成 7 年

- 1.17 阪神・淡路大震災（M7.2）、神戸市壊滅状態に
- 4.19 東京外国為替市場で 1 ドル＝79 円 75 銭の戦後最高値を更新
- 5.1 婦中大橋有料道路を無料開放し、道路および管理事務所を県に移管
- 7.10 ～22 日北陸・信越地方に集中豪雨。黒部峡谷不通
- 9.8 公定歩合引き下げ 0.5%に
- 10.2 能越自動車道管理事務所開設
- 12.6 五箇山合掌集落、ユネスコ世界遺産に登録

平成 8 年

- 3.7 能越自動車道小矢部砺波 JCT～福岡 IC 間、工事完了検査
- 3.28 能越自動車道小矢部砺波 JCT～福岡 IC 間、供用開始
- 3 月 英で狂牛病発生、欧州全土に広がる
- 4.1 中核市制度がスタート、富山市が中核市に移行

平成 9 年

- 4.1 消費税 5%実施
- 7 月 タイ通貨バツ暴落（アジア経済危機が世界に波及）
- 10.1 長野新幹線開業
- 10.17 高岡市の瑞龍寺、富山県内初の国宝に指定
- 12.11 地球温暖化防止京都会議
- 12.24 能越自動車道福岡 IC～高岡 IC 間（6.8km）、一般有料道路事業許可
- 12.18 東京湾横断自動車道（東京湾アクアライン）開通
- その他 企業の総会屋への利益供与事件、金融機関の破綻相次ぐ

平成 10 年

- 1.12 大蔵省、不良債権額 76 兆円と発表（全銀協公表額比 3 倍）
- 1.21 能越自動車道福岡 IC～高岡 IC 間、有料道路事業着手
- 2.7 長野冬季オリンピック開幕（～16 日）
- 4.1 改正外為法施行。日本版ビッグバンスタート
- 6.17 富山～大連便（中国北方航空）就航
- その他 資産デフレ、消費不振などで戦後最悪の不況。

平成 11 年

- 1.1 欧州単一通貨ユーロ誕生
- 2.12 日銀、金利を 0.25%から 0.15%に、実質ゼロ金利へ
- 2.25 立山有料道路改築事業（第Ⅲ期工事）着工
- 3.18 地域振興券交付
- 7.30 失業率 4.9%記録し過去最高、中高年の自殺急増
- 9.30 茨城県東海村で国内初の臨海事故、被爆者 49 人
- その他 コンピュータ 2000 年問題
自己破産申し立て 11 万 645 件（過去最高）
平成 11 年の完全失業率 4.7%、米国の 4.2%を抜く

平成 12 年

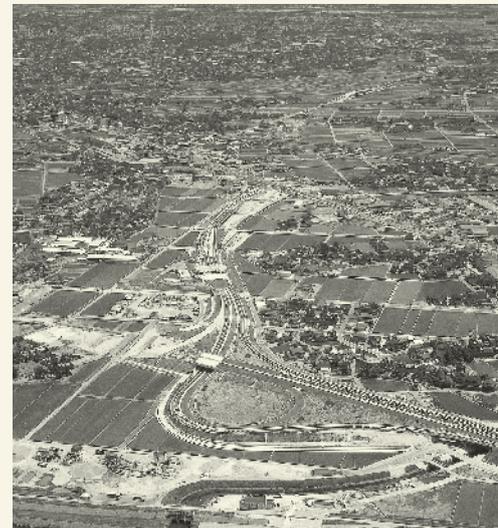
- 4.1 リストラをめざす統合、合併相次ぐ
- 4.21 コンビニエンスストアのセブンイレブン小売業売上高ダイエーを抜いてトップに（28 年ぶりの交代）
- 6.29 能越自動車道有料道路事業（福岡 IC～高岡 IC 間）、工事完了検査
- 7.12 そごう民事再生法申請。負債総額 1 兆 8700 億円
- 7.19 能越自動車道福岡 IC～高岡 IC 間、供用開始
- 7.21 沖縄サミット開催



小矢部砺波ジャンクション



福岡パーキングエリア



高岡インターチェンジ

公社のあゆみ 平成13年～令和3年

平成13年

- 1.6 中央省庁再編。1府21省庁から1府12省庁へ
- 1.10 携帯電話の普及率50%突破
- 3.13 日経平均株価終値で1万2,000円割れ。約16年ぶりの安値
- 4.25 北陸新幹線フル規格工事計画認可
- 3.31 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開園
- 9.11 アメリカで同時多発テロ、死者数千人。日経平均株価、17年ぶりに1万円割れ。
- その他 米国カリフォルニア電力危機

平成14年

- 1月 欧州単一通貨「ユーロ」の流通が始まる
- 4月 公立学校の完全週5日制実施
- 8.5 住民基本台帳ネットワークシステム稼働
- 11.16 東海北陸自動車道（五箇山～白川郷間）開通

平成15年

- 3.2 ノーベル化学賞受賞の田中耕一氏へ名誉県民の称号贈呈
- 7.7 能登空港開港
- 11.28 立山有料道路改築事業（第Ⅲ期工事）完了検査
- 12.1 地上デジタルテレビ放送始まる

平成16年

- 1月 イラクへの自衛隊派遣
- 4.1 富山県大連事務所開所
- 6.13 能越自動車道小矢部東本線料金所、福岡本線料金所開業（小矢部東料金所、福岡料金所、高岡料金所廃止）
- 6.13 能越自動車道高岡IC～高岡北IC間、供用開始
- 11.9 富山県で石井県政スタート

平成17年

- 1.1 自動車リサイクル法施行
- 4.1 個人情報保護法を全面施行
- 4月 旧富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学が統合して新富山大学が開学
- 10.1 道路関係4団体が民営化され、高速道路株式会社、（独）日本高速道路保有・債務返済機構設立
- 10.23 富山ー上海便就航

平成18年

- 1月 日本海側で記録的な大雪
- 5.1 「会社法」施行
- 6.28 富山県森づくり条例公布
- 7.15 海フェスタとやま開催（～7.23）

平成19年

- 1月～ 所得税（国税）から住民税（地方税）へ約3兆円の税源移譲を実施
- 4.15 能越自動車道高岡北IC～氷見IC間、供用開始
- 10.1 郵政民営化、日本郵政グループ誕生
- 11月 とやまPET画像診断センター開設
- その他 米国でサブプライムローンが不良債権化、金融市場が動揺

平成20年

- 4.1 後期高齢者医療制度スタート
- 7.5 東海北陸自動車道全線開通
- 9月 リーマン・ショック、世界同時不況が起こる
- 10.27 東京株式市場で日経平均株価の終値がバブル後最安値まで下落

平成21年

- 5.21 裁判員制度がスタート
- 8.30 衆院選で民主党が圧勝し、社民党・国民新党との連立政権発足
- 10.18 能越自動車道氷見IC～氷見北IC間、供用開始
- その他 世界同時不況で電機・自動車など輸出企業が巨額赤字に

平成22年

- 1.19 日本航空が会社更生法の適用を東京地裁に申請改革・再生へ
- 4月 再編統合による新高校5校開校
- 10.16 第23回全国スポーツレクリエーション祭「スポレクとやま2010」開催（～10.19）
- その他 梅雨明け以降、広い範囲で記録的な猛暑

平成23年

- 3.11 東日本大震災（M9.0）、原発事故で甚大な被害
- 7月 地上アナログテレビ放送終了
- 7.20 立山有料道路改築事業（第Ⅳ期工事）着工
- 11.11 伏木富山港が日本海側の「総合的拠点港」に選定
- その他 欧州の経済危機が深刻化



平成16年5月15日付け 北日本新聞



小矢部ジャンクション
小矢部東本線料金所整備後（平成16年）



道路改築事業細谷第4ロックキーパー
（平成24年）

平成24年

- 3.24 新富山大橋供用開始
- 3.25 能越自動車道水見北IC～灘浦IC間、供用開始
- 4.16 富山一台北便就航
- 7.3 立山弥陀ヶ原・大日平がラムサール条約湿地に登録
- 9.23 新湊大橋供用開始
- 12.16 衆院選で自民党・公明党が圧勝し、自公連立政権発足

平成25年

- 3.24 能越自動車道七尾大泊IC～七尾城山IC間、供用開始
- 3.27 県民ふるさとの日（5月9日）を定める条例公布
- 12.6 特定秘密保護法が成立
- その他 安倍政権の経済政策「アベノミクス」が始動

平成26年

- 3.30 牧野大橋供用開始
- 4.1 消費税8%実施
- 9.27 御嶽山が噴火、多数の登山者が被災
- 10.7 LEDの開発で日本人3人がノーベル物理学賞の受賞決定

平成27年

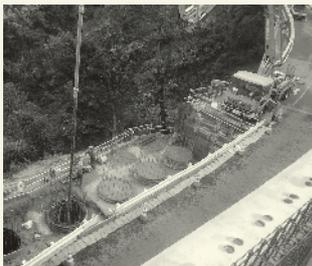
- 2.28 能越自動車道灘浦IC～七尾大泊IC間、七尾城山IC～七尾IC間供用開始
- 3.14 北陸新幹線開業（長野・金沢間）
- 3.14 「あいの風とやま鉄道」開業
- 11.8 能越自動車道泉境PA、供用開始

平成28年

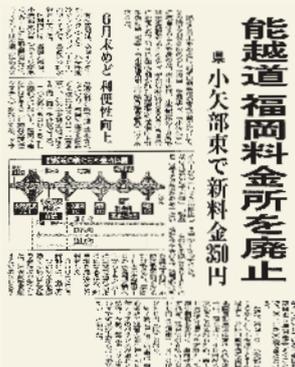
- 1.1 マイナンバー制度スタート
- 3.27 能越自動車道水見南IC、供用開始
- 4月 熊本地震発生（14、16）家屋倒壊、土砂災害など甚大な被害
- 6.19 選挙権年齢が18歳以上に引下げ（改正公職選挙法施行）

平成29年

- 6.15 「テロ等準備罪」を創設する改正組織犯罪処罰法成立
- 7.5 福岡県・大分県を中心とする九州北部に豪雨災害
- 8.26 富山県美術館全面開館
- 10月 残業に関する労働基準法違反で大手企業に有罪判決
働き方改革の機運高まる



道路改築事業細谷第1ロックシェッド
(平成30年)



平成30年2月21日付け 北日本新聞

平成30年

- 2月 北陸地方で記録的な大雪
- 6.20 能越自動車道本線料金所統合（福岡本線料金所廃止）
- 6.29 働き方改革関連法成立
- 12月 訪日外国人旅行者数3000万人突破

平成31年・令和元年

- 4.1 法務省の外局として出入国在留管理庁が発足
- 5.1 「令和」と改元
- 10.1 消費税10%実施
- その他 9月～10月に台風相次ぎ東日本で甚大な被害

令和2年

- 4.1 大企業で「同一労働同一賃金」を導入
- 7.1 全国で一律にレジ袋有料化
- 7月 九州地方・中部地方など日本各地で集中豪雨
- 11.9 富山県で新田県政スタート
- その他 新型コロナウイルス感染拡大、有料道路利用が大幅減少

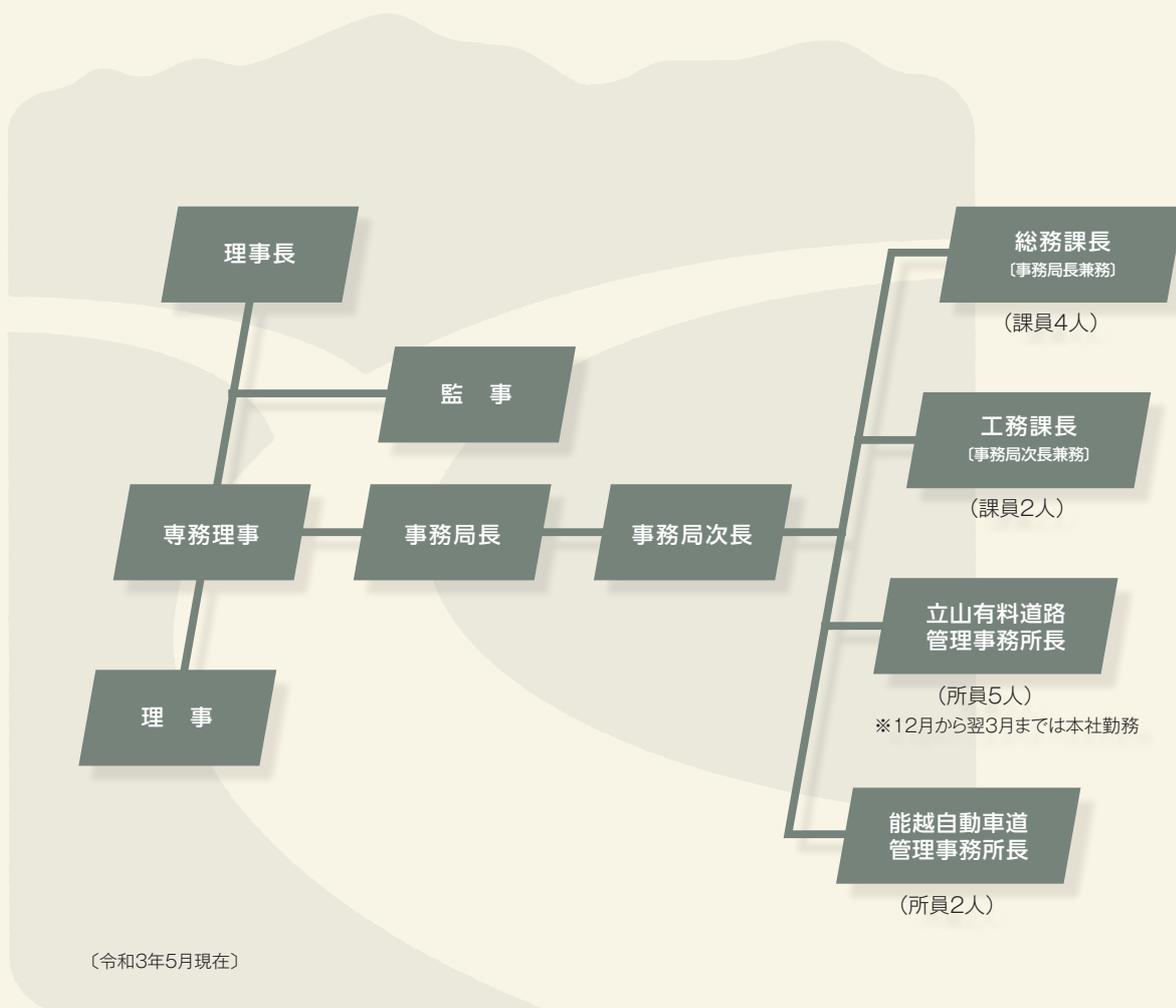
令和3年

- 1.7 北陸地方で記録的な大雪（～1.11）
- 1.22 小矢部市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ発生
- 2.13 福島県沖を震源とする地震発生（M7.3）
- 2.17 国内で医療従事者を対象に新型コロナウイルスワクチン接種開始
- 4.1 商品やサービスの価格表示を消費税込みの「総額表示」にすることが義務化
改正バリアフリー法施行、障害者用トイレなどの適正利用を促進



福岡本線料金所撤去工事
(平成30年6月22日撮影)

現在の道路公社組織図



シンボルマークの制定

当会社には、設立以来、アイデンティティとなるシンボルマークがなかった。そこで、平成13年に30周年記念事業の一環として、公募した。

公募にあたっては、立山有料道路及び能越自動車道を広く全国にPRするため、ホームページや新聞への掲載は無論のこと、募集チラシを作成し、全国の地方道路公社の協力を得て、有料道路のSAやPAなどに置いてもらったり、全国グラフィックデザイン協会の会員へダイレクトメールを送付した。

2か月余りの募集期間で、全国各地から総数415点の応募があり、審査を県総合デザインセンターの

黒木靖夫所長に依頼した。

審査の結果、平成13年10月4日、富山県小矢部市の会社員麻生ゆずるさんの作品を採用することとなった。

緑の立山連峰、青く神秘的な富山湾、爽やかな富山平野をひらがなの「と」を模した2本の道路がつなぎ、未来へのさらなる発展を表している。



編集後記

富山県道路公社の設立から50周年の節目の年を迎え、公社のこれまでの活動記録を取りまとめ、記念誌として発刊する運びとなりました。

この50周年記念誌は、先に刊行しております設立30周年記念誌に、その後の20年間における公社の活動記録を加えて編集しました。

本誌の編集を通して、公社が50周年を迎えることができたのは、多くの困難を乗り越えてこられた諸先輩方の努力と関係機関のご支援のおかげであることを改めて痛感しております。

本誌の記述については、過去の資料や写真が不足していることもあり、至らない点多々あるかと存じますが、何とぞご容赦いただきますようお願い申し上げます。

本誌が、ご一読賜りました皆様の公社事業に対する理解の一助となり、また、今後の公社運営に些かでも役立つものとなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、資料や写真をご提供いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

(編集委員一同)

(写真提供)

国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所
富山県土木部道路課
立山黒部貫光株式会社

富山県道路公社設立 50 周年記念出版
道とともに歩み続けて

令和 3 年 5 月発行

発 行 富山県道路公社

〒930-0096 富山市舟橋北町4番19号
富山県森林水産会館
TEL076-441-6611 FAX076-442-6467
<https://www.tym-rpc.or.jp>

制作・印刷 富山スガキ株式会社